

DFシーラント施工要領書

平成28年1月



エムケービルド株式会社

適応条件

項目	適用基準
用途	疲労ひび割れ
	施工継目ひび割れ
	リフレクションクラック
	低温クラック
	凍上クラック
クラック幅	3cm以上

調査

- ① 目視調査により、ひび割れの程度
- ② 測定法にはスケッチによる方法と路面性状調査による方法などでひび割れ率から維持修繕の要否を判断する。

表-3.3.1 ひび割れ率による工法選定上の区分の目安
(a) 自動車専用道路

	L	M	H
ひび割れ率(%)	10 程度以下	10~20 程度	20 程度以上

(b) 一般道路

	L	M	H
ひび割れ率(%)	15 程度以下	15~35 程度	35 程度以上

- 注1：L, M, Hは、維持修繕工法を選定するにあたっての目安であり、維持修繕行為の実施の要否を判断する管理目標値とは異なる。
- 注2：L, M, Hのそれぞれの値は、「道路維持修繕要綱」や実績などを踏まえ設定
- 注3：ポーラスアスファルト舗装は別途考慮する。

舗装の維持修繕ガイドブック2013(日本道路協会)を引用

工法選定

表-3.4.2 アスファルト舗装の破損と工法選定上の区分に応じた
維持修繕工法の選定の目安

アスファルト舗装の破損	維持修繕工法	破損の分類	維持工法						修繕工法				
			段差すり付け工法	パッチングおよびシール材注入工法	切削工法	表面処理工法	空隙つまり洗浄工法	薄層オーバーレイ工法	わだち部オーバーレイ工法	打換え工法	局部打換え工法	オーバーレイ工法	表面・非貫通打換え工法(切削オーバーレイ)
ひび割れ	●線状 ・疲労ひび割れ ・わだち割れ ・施工継目ひび割れ ・リフレクションクラック ・温度応力ひび割れ ・凍上によるひび割れ	路面、構造		L(M)						MH	LM	MH	MH
	●亀甲状 ・路床・路盤の支持力低下・沈下によるひび割れ ・基層の剥離によるひび割れ	路面、構造	LM							MH	LM		MH
	●凍上・凍結融解によるひび割れ	構造		LM						MH	LM		
	●アスファルト混合物の劣化・老化によるひび割れ	路面、構造	L			MH		MH					MH
	●構造物周辺のひび割れ	路面、構造	○	○							○		

舗装の維持修繕ガイドブック2013(日本道路協会)を引用

材料

1. DFシーラント

2. デタック液(タイヤ粘着防止剤)

DFシーラント		デタック液	
	荷姿		荷姿
	13.5kg		19 ^{リットル}

*この材料と容器の廃棄は有害特別廃棄物取集場所に処分する。

*雨に濡れないよう、製品にシートをかけてください。

品質管理

項目	基準値	ASTM規格	試験
色相	黒		クラフコ社が製造lot 毎に試験実施
比重	1.05以下	ASTM D70	
軟化点	79℃以上	ASTM D36	
伸度25℃	15cm以上	ASTM D113	
コーン針入度	3.5mm~7mm	ASTM D5329	
流動性60℃、5時間	3mm以下	ASTM D5329	
発火点	232℃以上	ASTM E303	

日常施工温度管理

項目	基準値	備考
路面温度	4℃以上	
DFシーラント加熱温度	193℃~232℃	
交通開放	40℃以下	

施工機械

1. 溶解釜 ミニメルター10

溶解釜	非接触赤外線温度計	その他
		<ul style="list-style-type: none"> *消火器 *トーチバーナー *プロパンガス *手袋 *水

施工方法

準備工①	設計図書・発注書に基づき調査する 現場調査(フォトカルク)ひび割れ率の調査 *1年間の路面温度確認 —16℃～64℃に適應できる材料
準備工②	*交通規制 *安全衛生朝礼 *使用機械前使用点検 *溶解釜にDFシーラントを入れ溶解開始 (材料を投入する場合、1回で1箱までにして下さい。)
清掃工	*ブロワーなどで路面に付着しているゴミを除去する。 *クラックなどに砂・土などが詰まっている場合は ブラシなどで掃除をする。 *路面が濡れている場合、加熱バーナーで乾燥させる。
シール注工	*溶解釜から193℃～232℃温度でシール材を注入する。 *冷却時に体積収縮が見られるため少し厚目に注入する。 (また凹んでいる場合は2度塗りも可能です) *シール注入量 m/約0.3kg
デタック液散布	*施工シール部温度検測(40℃以下で開放) *早急な道路開放が必要な場合、デタック粉、デタック液 (タイヤ粘着防止剤)を塗布する。 *仕上がり状況の確認 *施工延長の計測
交通開放	*施工シール部表面温度が40℃以下になれば交通開放 可能です。

DFシーラント施工手順



①準備工 DFシーラントを1箱投入し、溶解する。



②準備工 たまに溶解釜の蓋を開け、攪拌する。(厚手の手袋をし、火傷には注意してください)



③清掃工 クラック等に砂・土などで目詰まりしている場合、しっかりとブラシ等で掃除をしてください。



④清掃工 ブローなど除去する。(路面が濡れている場合は、加熱バーナーでしっかりと乾燥させてください。)



⑤注入工 193℃～232℃範囲でシール材を注入します。(ハンドルを持ちながら、前に押します)



⑥注入工 シール注入量 m/約0.3kg
冷却時に体積収縮が見られるため、少し分厚目に注入します。(また凹みが生じた場合、2度塗りも可能です)



⑦デタック骨材散布・交通開放
デタック粉(グレー)を散布する場合は、ほうきを使用してください。



⑧デタック液散布・交通開放
デタック液を散布する場合は、噴霧器を使用してください。